

## I 学校の概要

### 学習習慣形成モデル校事業 さぬき市立長尾小学校

#### ◆児童数及び教員数

○児童数

第1学年	第2学年	第3学年	第4学年	第5学年	第6学年	特別支援	全校
2学級 69名	3学級 75名	3学級 80名	3学級 72名	3学級 76名	3学級 76名	2学級 11名	19学級 459名

○教員数 27名

#### ◆学校の特徴

本校は今年度、前山小学校と統合して新しいスタートを切った。本校では、「豊かに自立する子どもを育てる」という教育目標のもと、「思い合いの心と自主性の育成」を目指して教育活動に取り組んでいる。

子どもたちは素直で明るく、あいさつ運動や読書活動に熱心に取り組んでいる。また、1～6年生の縦割り班や異学年での様々な活動を通して、思いやりの心や、進んで友達と関わろうとする態度が育ってきている。学習においては、全校で「ノートのみまり」を統一してノート指導を行ったり、ドリルタイムに視写を行ったりすることで、基礎的な力が育ってきた。また、全体的に自主的に学習を進められる子どもが多いが、学習への興味・関心が長続きせず、支援を要する児童も見られる。

保護者は、学校に対して協力的で、保護者アンケートの結果では、ほとんどの項目で肯定的な評価をしている。しかし、学校任せになりがちな家庭もあり、家庭での生活習慣や学習習慣が十分身に付いていない子どももいる。家庭と子どもたちのよさや課題を共有し、保護者とともに子どもを支え励ましたり、望ましい生活習慣や学習習慣の大切さについて啓発したりしていく必要がある。

## II 研究主題等

自ら学びに向かい、ともに認め合い、高め合う子どもの育成

～ 家庭と連携し、自己を高める学習習慣の形成を目指して ～

#### ◆研究主題設定の理由

本校は、平成26年度から、「思考を広げ、深める支援の工夫」や「認め合い、高め合いができる学びの場の工夫」、「学び合いを支える表現力の育成」の研究に取り組んできた。その成果として、子どもたちが、自分の考えに自信をもったり、多様な考えに気付いたりすることができるようになった。また、めあてを持って学習をすることや、自分が学んだことやがんばったことを振り返ることも定着してきた。

しかし、学習状況調査の結果をしてみると、平成25年度から学力が向上してきていたが、昨年度は伸びず、県平均を下回る教科や学年が多かった。児童質問紙の学習習慣や学習規律に関する項目でも、肯定的な回答をした子どもが県平均より低いものが多い。また、睡眠時間や家庭学習の時間が短く、生活習慣の形成にも課題がある。「授業がどのくらい分かりますか」の肯定的な回答は、59%で県平均を13ポイント下回っていた。

さらなる学力の向上を図るには、家庭や地域とも連携を図って学習習慣を形成したり、学ぶ楽しさや認め合い、高め合う喜びを味わったりすることが必要であると考え、本研究主題を設定した。

## ◆研究内容及び方法

- (1) 「学びのときめき」のある授業の工夫
  - ① 能動的な学習に向かう課題の設定
  - ② 思考を広げたり深めたりするための支援（発問・助言，板書，ノート指導など）
  - ③ 学び合いを活性化するための場や教具の工夫
  - ④ 達成感を味わったり、自分の成長に気付いたりすることができる振り返りや評価
  
- (2) 支え合い，認め合う仲間づくり
  - ① 自発的・自治的な態度が育つ特別活動
  - ② 思いやりや尊敬の心が育つなかよし班活動
  
- (3) 学びを支える生活習慣，学習習慣の形成と家庭との連携
  - ① 望ましい生活習慣の形成（生活チェック）
  - ② 家庭学習習慣の形成（家庭学習の手引きの作成・活用）
  - ③ 学習規律の形成（長小スタンダードの作成・活用）
  - ④ 家庭との連携（チェック表や家庭学習の手引きの活用）

## Ⅲ 成果の評価計画（検証方法）

- ① 授業研究の際に、子どもの学習活動の様子から取組の成果を見取る。
- ② 授業研究で協議した内容を基に、日常の授業実践を検証する。
- ③ 学年団で児童の様子について話し合い、取組の成果や達成状況を考察する。
- ④ 子どもや教職員、家庭を対象にアンケート（研究成果の参考とする10の指標）を実施し、改善した項目、改善できなかった項目について、その原因と改善策を考察する。
- ⑤ 下記の計画で、県教育委員会、義務教育課・東部教育事務所、さぬき市教育委員会の指導・助言を受け、研究の成果や課題について確認・検討する。

月	研修内容
6	実態調査の分析、今後の取組の検討（現教部）
6	研究授業①、研究授業②
7	1学期の取組のまとめと2学期の取組の検討
10	研究授業③、研究授業④
11	香川の教育づくり発表会の発表内容の検討

## Ⅳ 研究成果の普及方法

- ① 学校だよりや学年だより、学級懇談会等で、取組の概要や推進状況を保護者に知らせる。また、ホームページ等で研究の成果を公表し、広く啓発する。
- ② 校内研修会の他に、市の研究会や中学校区の研究発表会でも提案授業を行い、他校の教員から意見をいただく。
- ③ 保護者が学校へ来る機会（授業参観等）に、自主勉強ノートの展示や学習への成果を表す掲示等を行い、家庭学習の取組を紹介する。
- ④ 「香川の教育づくり発表会」で研究成果を発表する。